伝えよう・広げよう・キリストの心を

共に生きる

聖家族有志会報

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.19

編集／〒806-0049　北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内　／瀬下幸弘

皐月（さつき）
5
2012

5月3日（木）憲法記念日を大切に

憲法9条は福音的な「時のしるし」

1981年、広島にヨハネ・パウロ二世が来日、「戦争は人間の仕業です」と説いた言葉は有名です。教皇訪日に際し、当時の日本カトリック社会司教委員会は「平和と現代の日本カトリック教会」のメッセージを発表し、その中で「憲法9条は時のしるし」と述べています。また2003年にも社会司教委員会はメッセージで「私たちはあらためて憲法9条を核とする平和憲法の中に見られる福音的な時のしるしを確認したい」と述べています。（岡田・池長・谷・松浦・野村・宮原、6司教名で発表）2012年現在、日本の状況は戦後出発した平和を目指す動きからより大きく傾いているようです。公然と改憲を叫ぶ自治体首長もあらわれ、その中のある市長は、大震災被災地の瓦礫処理がすすまないことを「全ては憲法9条が原因」とまで言っています。福音を基に生きる私たちは、この改憲の流れに抗う姿勢が求められているでしょう。憲法記念日を目前にした今、憲法9条とそれを生み出した憲法前文を熟読してみませんか。

編集部

東本願寺

真宗大谷派

ーすべての原子力発電所の運転停止と廃炉を求めますー

「原子力発電所の再稼働に対する見解」を発表　4月23日

東本願寺は 寺院数 8600 寺、信者数 533万人。
4pにホームページ掲載

日本軍による

奄美大島のカトリック迫害は何故おきたのか

3／3奄美シンポジウム

谷司教が出エジプトの時代と明治政府の権力構図との比較から、教会迫害の原因にせまる。
（5p）

ACO平和講演会

6月3日（日）ミサ後

テーマ **「南京虐殺の真相とは」**

講師　秋吉久紀夫先生

詳細は後日お知らせします。

お知らせ

- ◆5月3日（木）九条まつり…10時30分～勝山公園
- ◆5月6日（日）平和の集い実行委員会 戸畑 …14時
- ◆5月11日（金）イチイチ祈りの会 援助修道院 …19時
- ◆5月13日（日）英語ミサと交流（黒崎）　…15時
  福岡教区信徒協、大名町教会…13時30分
- ◆5月14日（月）社会福音部会（テレジア）……19時
- ◆5月16日（水）ACO聖書分かち合い（天神町）…10時
  午後～ACO例会（天神町）
- ◆5月19日（土）九条守りたい（西南KCC）…14時
- ◆5月20日（日）北九州信徒協　小倉教会　…14時
- ◆5月27日（日）虹の会（分かち合い）……ミサ後
- ◆6月3日（日）平和講演会、秋吉先生　…ミサ後

マザー・テレサの祈り

あなたの中の最良のものを

あなたが作り上げたものが、
こわされるでしょう。
気にすることなく、作り続けなさい。

援助修道会　**修道院より**

5月11日：イチイチ祈りの会

場所は**修道院聖堂、午後7時**から。
どなたでもお出でください。

12年連続となった障がい者と歩こう会

4／15　晴天に恵まれました　ご支援有難うございました

畑貯水地の桜はだいぶ散っていましたが、１周５kmの道のりを楽しく歩きました。37名の参加でとても賑わいました。天神町や黒崎のみなさんの温かいビンゴ景品提供に感謝です。

スタート

ハイこっち向いて

楽しいお弁当

ビンゴに夢中

今年は、いつもより参加者が少なかったです。インフルエンザにかかったり、児童養護の子ども達は園内行事と重なって参加できませんでした。それでも近くでお弁当を食べていたグループにも声をかけ、一緒にビンゴを楽しみました。12年前は、あまり整備されていなかったキャンプ場でしたが、私たちも市に対し要望を出してきた結果、現在のようなきれいなセンターになってきました。使用を申込む山田さんは、職員に名前を覚えられたそうです。

お知らせ

聖書朗読テープがCDになりました

CDは２枚で200円、東日本大震災被災地に送ります。

［CD制作者より一言］

教会聖堂入口の左側の棚に”聖書の朗読テープ”があります。

十数年前、この教会の信徒約三十名が病床におられる方や聖書を読む事が困難になられた方の為に新約聖書の朗読テープを作りました。

この聖書朗読に当っては福岡黙想の家の来住神父様に読み方や心構えをお習いし「聖書を聞き読む事は『神様に心を向け、御心に出会う為ですから』静かに祈りを持って読む様に」とご指導戴きました。

皆一生懸命で朗読の勉強会に通われたり、朗読の箇所を書き写されたり、暗記する程練習なさる方もおられました。

この朗読テープは黒崎教会の信仰の歩みの一つであり、聴く者に暖かい励ましを与えてくれるものと思います。

現に、私は昨年、今年と病院で過した日々をこの朗読テープにより、たくさんの慰めと恵みが与えられ、大きな心の支えとなりました。この度、感謝を込めてこのテープをCDに録音し直しました。今年はカトリック暦年B年ですので、まず「マルコによる福音書」を作りました。（ご活用戴けるとうれしく思います。）

ご希望がありましたらお分け致します。

お問い合わせ
FAX(093)622-1290

元原発労働者・梅田隆亮さんの裁判をご支援ください！

日本にある原子力発電所で働く労働者たちの作業実態をほとんどの方は知らないと思います。なぜなら被曝の事実、健康被害、ガンに侵されて亡くなったりしたことのほとんどを隠されているからです。クリスチャンでもある梅田隆亮さんは、多くの原発被曝労働者を代表して、その健康と人権を勝ち取るために、裁判へと立ち上がりました。４月21日(土)細江カトリック教会での梅田さんのお話しを聴く場に多くの方が参加しました。（F）

1979年に島根原発と敦賀原発で働きました。日本独特の労働システムつまり「下請け、その下請け、孫請け…」このような仕組みの中で、賃金は削られ、労働者たちはものが言えなくさせられているとのことです。現場では被曝に対する安全教育はほとんどなされないままです。被曝線量を計測するメーターを体に着け現場に行くと、警報音が鳴ってしまうため作業が出来ません。仕方なくメーターを一人の人に預けて労働者たちは作業します。放射性物質の飛び交う中で素手で作業もします。待ち受けているのは、人体に存在するはずのないセシウムなどです。企業の示す資料と労働者たちが受けた被曝線量数値はかけ離れています。

梅田さん(76才)は、ご自分の体験をもとに健康と人権回復を求めて立ち上がりました。

支える会の共同代表者の木村公一牧師は、黒崎や小倉教会のミサにも来られた方です。

5月9日(水)午前11時～　福岡地方裁判所303号法廷で第１回口頭弁論。

４月11日:イチイチ祈りの集い　援助修道会

昨年の９月、震災から6ヶ月に当り、日本カトリック司教団から出された祈りの依頼にお答えして、毎月11日に“イチイチの祈りの集い”を始めることにし、今回で８回目になりました。

この度は、「福島の子どもたちからの手紙」と云う本から何人かの子ども達の手紙を抜粋して、お二人の方に読んでいただき、子ども達の心の底から出て来る叫びを聞いて祈りました。この本は福島の子どものお母さん達が、子ども達が原発事故の一番の被害者なのに、子ども達の思いを聞いてくれる人も、子どもがそれを伝える方法もないことに気付き、子ども達の気持ちをきちんと伝えるために、子ども達の声を集め、一人でも多くの人に読んでもらうために、「福島の子どもたちからの手紙」(朝日新聞出版）と云う本を作りました。

“みんなをなんでこんなびょうきにするんですか？”“いつになったらほうしゃのうはなくなりますか。僕は大人になれますか？いくつまで生きられますか？”“大人が勝手に作った原発でなぜ福島の子どもたちが被曝しなくてはならないのか　私には分かりません”。“福島の人はほうしゃのうがあるからいやだと言ってさべつされ、とてもかなしい。こういうときこそ日本が１つになればいいのに、それはどうしてもならない。だから福島だけでも１つになって、しん災や、災害に負けない福島、笑顔のあふれる福島、世界にほこれる平和な福島を作りたい”。“早く外で遊びたいです。家族がはなれてくらすのもいやです。友達と離れるのもいやです。どうか僕たちをたすけてください”

…等々、子ども達の率直に表現された痛み、悲しみ、怒り、願いに共に痛んで祈りました。その後、自由に一言ずつ分かち合いました。私はこの子ども達の叫びが心にひびき、大人として子ども達に答えて責任を果たしたい。何か小さなことでも神様がみせて下さること、させていただけることをやっていきたいと心から願いました。最後に、皆の心からの願いと祈りを御父にささげ、子ども達に平和を願って主の祈りを唱えて終りました。

夜でしたが、12人もの方が来て下さり、本当に感謝しています。共に祈る中にキリストもしっかりといて下さり、そこに置かれた子ども達の手紙の中にもイエスが居て下さったように思われ、共に祈る恵みの大きさを感じました。

今後も毎月11日にこの祈りを行います。通常午後７時から致します。どうぞどなたでもいらして下さい。お待ちしています。

援助修道会　Sr. 高木百世

東北レポート

震災と障害児が抱える問題点

高瀬 理沙(大学生)

障害児や障害者のヘルパーアルバイトをしていたとき、バイト先の理事長(東北の障害者支援部長)からボランティアに誘われ、1月4日から10日まで、岩手県宮古市に行きました。

そして、被災地障害児児童デイのボランティア活動として、自閉症の子どもと関わり、自閉症の子が抱える震災後の現状を見てきました。

自閉症は生まれつきの脳の機能障害で、人との関わりが難しいことが特徴です。人によって特徴などは様々ですが、自閉症は知的障害を伴っており、人に自分の気持ちを伝えたりすることが難しいのです。普通の子供は他の新しい記憶で、過去を忘れていくものですが、自閉症の子は震災の時の記憶がひとつの写真のように、はっきりと残ってしまいます。ですからフラッシュバックで、未だに苦しめられています。もちろん、震災を経験された人も多いのですが、自閉症の方はその印象がより強く、コントロールが難しいのです。

私が出会ったA君は自閉症で、震災後の今でもパニックに苦しめられていました。家庭生活が震災によって一変し、それについていくことができず、泣いていることが多くなりました。自傷行為(壁に頭を打ち続ける)などに走ることもあるようです。親も震災後、やらなければならないことが多くあり、子供につきっきりになることができず、ストレスが溜まっている様子でした。

A君の話で印象的だったことは、A君と友達(当日、A君の担当ヘルパー)の話でした。

週末後、A君と会った友達は彼に尋ねました。「休みは何していたの?」するとA君は「ずっと泣いてた。」と言って泣き顔の絵を書きました。友達は休みの日の思い出を尋ねたかったのに、思いもよらない返答で、何も言葉が出てこなかったそうです。

家の中であの日を思い出し、ストレスで怒ったりして泣いていたのでしょう。津波や地震の時の記憶が鮮明に残ってしまい、パニックという形で現れてしまうのです。処理することもできず、発散するやり方もわからない。障害のない方なら、自分の思いを人と分かち合ったり、感じたことを話したりして、伝えることができるのですが…、A君にとっては、この行為が難しいのです。本当にかわいそうだと思いました。だから、ボランティアでA君を預かっている間は、一緒に散歩に行ったり、体を動かしたり、好きなことをして、ストレスを減らすようにしました。その時のA君は落ち着いていました。A君にとって、このボランティアセンターで過ごす時間が楽になれるのなら、このボランティア活動はとても意味があると感じました。

私はこのボランティアを通して、震災によって障害児が抱えた問題、心のダメージ、まだ復興出来ていない現実などを改めて痛感しました。

そして強く思ったことは、「忘れてはいけないということ」。あの日のことを、忘れずに自分のできることをやろうと思いました。

みんなにも、忘れて欲しくありません。これからの東北を一緒に応援していきたいと思います。

真宗大谷派の原発停止宣言 紹介

http://www.higashihonganji.or.jp

(終わりの部分掲載)

……私たちは、すべてのいのちを摂めとって捨てない仏の本願を仰いで生きんとする念仏者として、仏智によって照らし出される無明の闇と、事故の厳しい現実から目をそらしてはならないと思っています。

すべての原発の運転停止と廃炉を通して、原子力に依存しない、共に生きあえる社会の実現に向けた取り組みがなされる歩みを進めてまいりたいと意を決しております。 2012年4月23日

キリスト者・九条より

第二回 北九州9条まつり

午前 5月3日(木)憲法記念日
10時30分～12時30分
勝山公園芝生広場
※雨天の場合はムーブ5F 大セミナー

午後 北九州憲法集会ムーブ2Fホール
13時～斎藤利幸弁護士

奄美大島訪問（3月3日）　瀬下幸弘

奄美のカトリック教会の歴史から学んだもの（2）

〈押川はるかさんの証言より〉 前号の続き

お墓の十字架を夜中に引っこ抜いてその場で焼いていたんです。子どもながらにも朝、学校に行く時には煙がまだ残っていたのを覚えています。十字架が一本もないという状態だったわけです。

各教会の御堂などは役場などになってしまい、私のいた教会は持って行かれたわけです。ここ名瀬には特に大きなレンガ御堂があったわけですが、ここも町役場になりました。私が小学校3年の時、学校の先生も我々をいじめよったです。学校の先生がカトリックの生徒をみたら、棄教しろ、カトリック信者をやめろ、やめろということで、ひどくやられてつらかったです。今こういう話をしてもどうにもなりませんが、我々が先人たちの信仰を学びながらこれからも一生懸命頑張らないといけないとつくづく感じている次第であります。有難うございました。

迫害を逃れ、無事原形を留めた御絵
（大熊教会信徒会館に飾られている）

〈100周年資料誌より〉

「外人宣教師が居るのがいけないと言っていた軍部は、宣教師たちが引き揚げて行ってからも、それだけで済まさず、かえって一層激しく弾圧を始め、新聞は書きたて、荒れ狂っていった。美しい赤煉瓦の名瀬の教会は町役場にされ、立派な大熊教会は名瀬に移され三方村役場に、素晴らしいコウモリ天井の浦上教会は青年学校とされる等、すべての教会は、祭壇等は取り壊され、十字の形の教会らしい壁や窓等すべて取り払われ、悲しい姿に変えられた…塔上の十字架が日の丸に変わっていた。」「自治体が率先して宗教を迫害し、土地、建物を取り上げる等は近代日本で他に見ることのできない事件ではなかろうか。」（45～46ページ）

〈谷司教が奄美における迫害と信教の自由について語る〉 要点のみ

・07年信教の自由と政教分離メッセージで、奄美大島迫害を触れなかった。80年前の迫害の歴史をおさえておく必要がある。

〔何故迫害が起きたか〕

・奄美迫害は、「天皇教」対「キリスト教」という構図になっている。キリスト教のいう一神教をモーセの十戒から考えてみたい。

当時、巨大ピラミッドの神殿があり、荘厳な祭典、来世信仰、こういった宗教施設を作り、典礼に民を参列させ、威圧して信仰を強要していた。そこには神々と交信のできるファラオがおり、それは現人神と言える。その下に神官。その下に貴族。それから平民、その下に奴隷、移住者。あちこちの国からエジプトにやって来た人達の中にイスラエルの民もいた。これを管理していたのが、軍隊などで、彼らは殺したり盗んだりしていた。モーセの十戒に盗むな、殺すな姦淫するなとあるがそれをやっていたのは、この軍などでファラオはそれを掌握しており、この構図の中でイスラエルの民は苦しんでいた。一方、明治の国家神道の構図をみると…（次号へ続く）

読者投稿

この本を読んでみませんか！（菜）

私たちになじみのある聖書の箇所もヘンリの福音の旅に同伴すると、まったく新しい目が開かれます。

活き活きとしたイエスとの出会いのために…

「あめんどう」の出版です。

突然の居候 のんびり暮らしてたら、突然、居候がやって来て

気はいいんだけど、やんちゃ坊主でねぇ、ワタシのしっぽで玉をとって遊ぶので、日向ぼっこもオチオチできません。

（ぽーさん）

ツィッター

前号の“長寿の心得”に感謝です（U）

還暦・古希・喜寿・傘寿・米寿・卒寿・白寿の前向きな生き方を教えてくれて有難う。ところで、“ツィッター”ってどういう意味かな？

“この新聞には気を付けるように”

ある司祭が、女性年長者に言われたそうです。この新聞とは“共に生きる”紙のこと。編集会議でこれが大議論となりました。その結果は次の通りです。「この新聞には、様々な角度から温かいニュースが掲載されている。元気をいただけるものが豊富にあるので、サラッと読まずに、**気をつけてしっかり読むように**して下さいネ。」多分こういう意味でしょう。感謝。

総体の成長

～"従軍慰安婦"問題にかかわって～(3)

山県順子

"慰安婦"問題解決の難しさは、何よりも加害国日本の総体としての関心の低さ、日本政府の倫理的判断力の欠損にあると思います。状況は焦眉の急を告げていますが(昨年、韓国元"慰安婦"16名他界、当初の234名から61名に)、まだ日本政府を動かすことができません。被害女性たちは日本女性の熱いシスターフッドに感謝しても、総体としての日本は許せないでしょう。

その総体の一部、宗教界は他分野より生命倫理の共通認識はあると思いますが、一歩進めて"女性の尊厳"についての認識はどうでしょうか。世界の四大宗教は父権制時代に成立、各聖典の執筆、編策、翻訳、伝道の業すべては男性によるものでしたので、別名"男の書物"とも呼ばれています。キリスト教においては19世紀の終わり頃から、特に聖書中の女性抑圧表現について、これは真に神のご意志か、の研究を女性神学者たちが始めました。現在のフェミニスト神学は、聖書には人間の権力者による記述が多く含まれていること、"神の名による暴力"は決して許されないこと、等を強く発信しています。

私も20年前、初めてフェミニスト神学の講議(旧約の世界的フェミニスト神学者フィリス・トリプル女史による。於 西南学院大学)を聴講した折り、例えば創世記21：16で、ハガルがわが子イシマエルが死ぬのを見るに忍びず離れてすわる時、「子供は声をあげて泣いた」となっているところは、どのヘブル語写本も「ハガルが泣いた」となっていて、「翻訳者は2千年もハガルの悲しみを剥奪してきた」と聞き驚きました。帰宅後長年愛用の日本語聖書を開くとその通りで、強い衝撃を受けました。(現在の新共同訳は「ハガルが泣いた」に)。伝統重視の宗教界には、旧制度を聖域化したり組織疲労的な問題もあります。優れた研究による聖典の再解釈を学び伝えてゆくことは、どの宗教、教派にも新しい風と力を生み出してゆくでしょう。

カトリックの有名なフェミニスト神学者ローズマリー・リューサー女史が提唱された「女たちの教会」で使われている「レイプからの癒しの式文」に出会ったときも、本当に感動しました。

「私たちはこの傷ついた姉妹を愛し、この姉妹の存在を誇りに思います。姉妹は暴力によって痛めつけられましたが、その全体は損なわれていません。姉妹は辱めを受けましたが、その高潔さは失われていません。醜態なるものが姉妹を屈服させましたが、姉妹は美しいままです。(略) 祝福の基なる母なる霊が、姉妹を包み、励まし、その全体性を回復させて下さいますように」。

"慰安婦"問題について、日本政府は人間の品格を放棄しているかに見えます。日本の宗教界が、こぞって真摯に女性のジェンダー性に取り組むとき、日本の総体は影響を受け、民意が成長し、日本政府の目覚めも遠くないのではと期待します。(おわり)

◆◆◆◆◆◆

咲きました

黄桜って、黄色い花が咲きそうですが、それは真っ白で、近寄ってよく見ると、縁がほんのり薄～いピンクでまるで華奢な少女のよう…！

読者提供

編集後記

社会には人間の尊厳を必死に伝えようとする方々が存在します。そこに耳を澄ませば、人間の生き方に対する真理と倫理への道が見えてきます。今春、哲学者、古賀哲夫先生(86才)と出会う時に恵まれました。「出征時の死を覚悟して読んだ聖書と今読む聖書とでは響きが全く違うのは何故」。その後戴いた手紙に「バイブルに限らず、親鸞の書もゲーテのファウストも何もかもが違って読めました。それは多分、旧憲法下の空と新憲法下の空との違いにも似たものだったのでしょうね」と。　今も平和のメッセンジャーとして働いておられる先生に勇気をいただきました。(瀬下)